

第84回山陽新聞賞贈呈式

研さん積み社会貢献

松山さんら6人2団体



第84回山陽新聞賞の贈呈式が8日、岡山市北区駅元町のホテルグランヴィア岡山であり、文化、社会功労の計6人2団体を表彰した。（5面に特集）

各2人、産業功労1人と山陽新聞奨励賞の文化部門1人1団体と社会部門1団体、太岡山県知事、大森雅夫岡山市長、中村正芳県教育長、受賞者と来賓の伊原木隆

第84回山陽新聞賞の贈呈式で桑原社長から賞状などを贈られる受賞者

那須保友岡山大学長、松田久県商工会議所連合会長、大原謙一郎大原美術館名誉館長、黒住宗晴黒住教名譽教主、神崎晋旭川莊理事長が出席した。

山陽新聞社の桑原功社長が一人一人に賞状と日本芸術院会員蛭田二郎氏制作のメダル、賞金（山陽新聞賞50万円、奨励賞30万円）の目録を贈り「皆さまはそれぞれの分野で長年にわたって研さんを積み、たゆまぬ努力によって社会に貢献されてきた。これまでのご精進に敬意を表します。次の時代を担う後進の育成にも力を発揮していただきたい」とあいさつ。来賓代表の伊原木知事は「皆さまがいろいろな分野で頑張ること地域が元気になっていく。今後ますますのご活躍を祈念します」と祝福した。

受賞者を代表し、社会功労の県医師会長松山正春さ

ん(82)＝岡山市中区原尾島Ⅱが「支えてもらった皆さんのおかげで今の私がある。受賞を機に、もうひと頑張りしたい」と謝辞を述べた。

賞は地域社会への貢献や国際舞台での活躍が顕著な岡山、広島県の個人、団体を顕彰し、山陽新聞社が毎年贈っている。

他の受賞者は次の皆さん。（敬称略）

【文化功労】書家中池竺舟(80)＝本名・克直、岡山市南区あけぼの町▽彫刻家、画家武藤順九(75)＝本名・順一、津山市昭和町
【社会功労】岡山大学術研究院医歯薬学域教授宮石智(65)＝岡山市北区伊福町
【産業功労】岡山県経営者協会会長野崎泰彦(71)＝岡山市中区門田屋敷
【奨励賞・文化部門】歌人大森静佳(36)＝京都市(岡山市出身)▽福山文化連盟邦楽部＝福山市霞町
【奨励賞・社会部門】山中一揆義民顕彰会＝真庭市禾津

（伊丹友香）

さんデジに
動画

第84回 山陽新聞賞贈呈式



社会功労

県民助ける組織に誇り

岡山県医師会長

松山 正春さん(82) 岡山市中区原尾島

東日本震災の被災地支援のため、岡山県医師会は災害医療チーム「JMAAT おかやま」を初編成しました。その時に多くの会員らが手を挙げてくれ、県医師会はずいぶんポテンシャルを持っていると感じました。

会長になり、県民にもっと組織を知ってもらおうと始めたのが移動会長室です。地域や学校に向いて話をしています。とても楽しい時間を過ごさせてもらっていて、開催は130回を超えました。

県医師会には私の誇りです。これからも何かあった時には必ず県民の支え、助けになる組織であり続けたいと思います。

健全な労使関係構築を

岡山県経営者協会会長

野崎 泰彦さん(71) 岡山市中区門田屋敷

産業功労

自分の仕事に専念した若い頃から一転、2017年には岡山県経営者協会会長という立場を預かりました。日本経済はいま、デフレからインフレ局面への転換期にあります。会員企業でも高い水準の賃上げが進む中、微力ながら健全な労使関係の構築に力を尽くす所存です。

江戸時代から続く家業の製塩業を受け継いできました。社長に就いた1991年当時は塩専売制度の終焉が意識される時期にあり、決して恵まれた事業環境ばかりではありませんでした。多くの人に支えられ、今日まで歩んでくることができました。



第84回山陽新聞賞・奨励賞

豊かな書 未来につなぐ

書家

中池 竺舟さん(80)＝本名・克直＝

岡山市南区あけぼの町

岡山南高時代に今は亡き山下秋舟先生に師事して60年余。流麗な筆で力強い漢字を調和させた恩師の書風を踏まえつつ、より力感のある自分らしい書を目指し、研さんを積んできました。岡山県書道連盟の先生方をはじめ多くの方に導いていただき、ここまで来られました。私も県内の高校や大学での指導などを通して、岡山の豊かな書の土壌を未来につなぐことに力を注いできたつもりです。

80歳になりましたが、まだまだ未熟です。「もっと頑張れ」と励ましの言葉をいただいたと考え、今後も精進したいと思っています。

文化功労



喜びの受賞者

8日に岡山市内で開かれた第84回山陽新聞賞の贈呈式。文化、社会功労各2人、産業功労1人と山陽新聞奨励賞の文化部門1人1団体、社会部門1団体の計6人2団体の功績をたたえた。受賞者はスピーチでこれまでの歩みを振り返るとともに、一層の精進を誓った。（1面関連）

第84回 山陽新聞賞贈呈式



世界に日本の価値発信

彫刻家、画家

武藤 順九さん(75)＝本名・順一＝

津山市昭和町

文化功労



東京芸術大を卒業後、50年以上にわたってイタリアをはじめとする海外で暮らし、日本人として世界に何を発信すべきかを常に意識するようになりまし

た。戦後、日本は西洋の後を追うばかりで、自国の文化をおろそかにしてきました。世界が混沌する今こそ、伝統文化や生活の知恵を取り戻し、独自の個性を輝かせる時です。

私が「最後の地」として選んだ津山市は「よくぞ守り抜いてくれた」と感嘆するほどに古来の精神性が息づく土地です。この地から世界に向け、日本の価値を発信していきたいと思いま

法医学 生きる人へ活用

岡山大学術研究院医歯薬学域教授

宮石 智さん(65) 岡山市北区伊福町

社会功労



捜査機関の依頼で遺体の死因を究明する司法解剖などをを行う法医学の医師は、黒子です。舞台にはいない黒子を「いる」と認め、評価いただいたことが大変ありがたく、今後、この道を目指す人たちの励みになると思っています。

亡くなった人のメッセージを、生きる人にかしていただく法医学だと思っています。職務に向き合ってきた「社会の要請は断らない」と心に決め、年間約200件の解剖に当たっています。3月末で岡山大を定年退職しますが、今後も社会に奉仕できよう、後進の支援に励んでいきます。

県民助ける組織に誇り

岡山県医師会長

松山 正春さん(82) 岡山市中区原尾島

社会功労



東日本大震災の被災地支援のため、岡山県医師会は災害医療チーム「J-MAT おかやま」を初編成しました。その時に多くの会員らが手を挙げてくれ、県医師会はずいぶんポテンシャルを持っていると感じました。

会長になり、県民にもっと組織を知ってもらおうと始めたのが移動会長室です。地域や学校に出向いて話をしています。とても楽しい時間を過ごさせてもらっています。開催は130回を超えました。

県医師会が私の誇りです。これからも何かあった時には必ず県民の支え、助けになる組織であり続けたいと思います。

健全な労使関係構築を

岡山県経営者協会会長

野崎 泰彦さん(71) 岡山市中区門田屋敷

産業功労



江戸時代から続く製塩業を受け継いできました。社長に就いた1991年当時、塩専売制度の終焉が意識される時期にあり、決して思われた事業環境ばかりではありませんでした。しかし、多くの人に支えられ、今日まで歩んでくることができました。

自分の仕事に専念した若い頃から一転、2017年には岡山県経営者協会会長という立場を預かりました。日本経済はいま、デフレからインフレ局面への転換期にあります。会員企業でも高い水準の賃上げが進む中、微力ながら健全な労使関係の構築に力を尽くす所存です。

岡山の風土を詠みたい

歌人

大森 静佳さん(36) 京都市(岡山市出身)

奨励賞

文化部門



短歌を作り始めた高校時代、山陽歌壇に投稿したことで、時を経て今回賞をいただいたことがとても感慨深いです。

短歌は五七五七七のリズムの中で、見たもの、感じたことを残すことができます。私は歴史が好きなので、今後は岡山の歴史や風土も自分なりに詠み込んでいきたいです。

この数年は高校生へのワークショップなどで月1、2回、岡山に戻ってきています。自分も岡山で小川洋子さんら作家の講演に触れ、文学に興味を持ったので、より若い世代に表現、言葉の面白さを伝えていければと考えています。

歴史を継承する契機に

山中一揆義民顕彰会 真庭市永津

会長 浜子尊行さん(75)

奨励賞

社会部門



江戸時代に作州地域で起きた農民一揆・山中一揆の勃発から300年を迎えました。この節目を次世代に歴史を継承する契機として考えています。

先人たちが残した史料を基に山中一揆の研究が盛り上がり、1980年に当会は発足しました。以降、「一揆の犠牲者を慰霊する」「義民まつり」や研究冊子の発行といった顕彰活動を行ってきました。

現在、真庭市在住の映画監督・山崎樹一郎さんを講師に迎えた演劇ワークショップや歴史講座といった300年記念事業を展開しています。多彩な催しで、地域の関心を高めたいと思います。

琴の産地の文化支える

福山文化連盟邦楽部 福山市霞町

副部長 村本歌弘さん(71)＝本名・弘美＝

奨励賞

文化部門



福山市内の琴、尺八グループ13団体が加盟し、市ゆかりの作曲家・宮城道雄の名を冠した演奏会や市最大のイベント「福山ばら祭」などで年間を通して活動しています。邦楽好き同士で楽しみつつも、良い音を奏でようと自然と研さんしています。地道な努力を評価していただき、大変光栄に思っています。

近年は、少子化の影響で琴を弾く小学生も少なくなり、会員の高齢化も進んでいます。ただ、われわれが拠点とする福山は日本一の琴の産地。伝統ある地の文化を支える立場であると感じて認識し、これからも活動にまい進します。